



月潟中学校 学校だより

翔舞

R7 第18号

令和8年3月10日
発行
新潟市立月潟中学校

新潟市南区月潟740
☎: 375-2106



祝卒業 ～しっかり前を向いて、胸を張って未来へ！～

6日(金)、多数のご来賓のご臨席を賜り、第79回卒業証書授与式を挙行了いたしました。たくさんの保護者・ご家族、在校生に見守られながら、卒業生26名は立派な姿で卒業証書を手にし、この学び舎を巣立っていきました。

答 辞

草木もようやく眠りから覚め、生命の息吹が感じられる今日、私たち26名は卒業の日を迎えました。本日は私たちのためにこのような心のこもった卒業式を挙げていただき、ありがとうございます。また、ご多忙の中、お越しくくださったご来賓の皆様、保護者の皆様、そして先生方、在校生の皆さんに卒業生一同心より御礼申し上げます。



先ほど校長先生およびご来賓のPTA会長様、そして在校生代表からいただいたご祝辞と励ましの言葉を胸に、本日私たち26名は義務教育の過程を修了し、月潟中学校を卒業いたします。卒業の時を迎え、私たちの胸の中には、数えきれないほどの思い出が蘇ってきます。

3年前、真新しい制服に身を包み、私たちは、月潟中学校に入学しました。中学校という次のステージに進んだばかりの右も左も分からない私たちに先輩方や先生

は、中学生としての在り方を教えてくれました。

2年生になると、初めての後輩ができ、私たちは先輩方から教わった中学生としてのあるべき姿を後輩たちに教えられるように、尽力しました。

そして3年生になり、頼れる先輩方がいない最高学年という立場で、私たちは責任を感じながらも、かつての先輩方が見せてくれたように、それぞれの役割を果たしました。

そんな中学校での日々はあっという間に過ぎていきましたが、確実に私たちを成長させるものでした。特に私たちを成長させた出来事としての思い出深いのは修学旅行です。2年生の後期から期待に胸を膨らませ、私たちは修学旅行の準備を進めてきました。それぞれの行きたい場所、やりたいことをまとめ、計画を立てました。修学旅行本番、生徒だけで行動する2日目の班別研修は準備のおかげか予定通り進めることができ、観光に来ていた外国人との交流もできました。

ところが、強風によるトラブルで、なんと、私たちはもう1日大阪で過ごすこととなってしまいました。修学旅行で初めて飛行機に乗った人も多い中、このハプニングが不安でたまらなかった人も多かったはずですがそんな中、「大丈夫？」という声かけや、体調を気遣い合う様子が私たちのクラスの中にありました。先生方も保護者に電話をできるようにしてくれました。クラスの仲間や先生方のそういった気遣いにとっても救われるとともに、改めてこのクラスの良さに気づけました。そして、修学旅行を通し、私たちは計画性、協調性はもちろんのこと、本当の思いやりや気遣いを学び、成長することができました。

さて、人によっては、0歳から一緒にいるような私たちでしたが、月潟中学校に入り、お互いをもっと知ることができました。仲間たちと一緒に過ごす時間は長いようであっという間の時間でした。高校に進み、今まで毎日一緒にいた仲間たちと簡単には会えなくなるかもしれない、ということが私は不安でたまりません。いつも明るくて、大好きなクラスだからこそ、みんながいない卒業後の毎日が想像できません。辛いことも嬉しいことも、全部全部一緒に分かち合ってきた、最高の仲間たちです。

そして、そんな私たちを支えてくださった相田先生。相田先生にも感謝してもしきれません。私たちが2年生に進学したときから、私たちを見守り、支えてくれました。相田先生はいつも面白く、生徒のことを一人一人見てくれる先生です。迷惑をかけてばかりだったかも知れませんが、先生のおかげで自分を見直す機会を得られたこともありました。

義務教育を修了した私たちは、次のステップに進むことになります。様々な経験をする中で、中学校で経験したことより、辛いことや大変なことも多くなるかもしれません。今まで辛いこと



や大変なことを一緒に乗り越えてきた仲間たちも離れ離れになってしまいます。ですが、そんな時こそ月潟中学校で過ごした日々を思い出しましょう。そして、前を向き、進み続けていきましょう。そう思えるだけの価値のある3年間だったと今、私は胸を張って言えます。

最後になりますが、いつもそばで私たちを支えてくれた家族、たくさんの応援をくださった地域の皆様、支えてくださった先生方、一緒に学校生活を送った在校生の皆さん、本当にありがとうございました。月潟中学校のますますの発展と皆様の健康をお祈りし、答辞といたします。

卒業生代表

送 辞

厳しい冬の寒さが和らぎ、春の訪れを感じる季節となりました。本日この校舎から羽ばたかれる卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。振り返れば先輩方との思い出は、私達にとってかけがえのない宝物です。どんな時も私達は先輩方の背中を追ってきました。



私が先輩方の姿で、特に強く印象に残っているのは、月輝祭です。躍進会ステージでは、月潟中学校を盛り上げようと中心になって企画をする総務委員会の先輩がいて、それに応えるように部活動や委員会の中で計画をたてたり、自分から後輩を誘い一緒にダンスをしたりする先輩もいました。先輩方一人一人の行動を見て、私はそれを当たり前のようにしている先輩方がとても頼もしく、かっこいいと感じました。本番も、一人一人の笑顔がとても輝いていました。

また、合唱で見せた、仲間を思い團結する姿は今も鮮明に記憶の中に残っています。先輩方の合唱を聴いて、合唱には人の心を動かす力があると思いました。先輩方が作る合唱は、ただ上手なだけでなく、それ以上にメッセージや思いが伝わってきました。今年度先輩方が歌った「群青」の歌詞に「当たり前が幸せと知った」という言葉が出てきます。先輩方がこの言葉を歌った時に、私は「当たり前」という言葉から、日々の学校生活や、全校生徒が作り上げる空間を思い浮かべました。当たり前のようにいるこの環境が、実は当たり前ではなく、色んな奇跡が重なって実現しているとても幸せなことである、ということに、気づかせてもらえるような力が、先輩方の合唱にはありました。農環センターに響き渡る先輩方の歌声に、感動と勇気をもらいました。そして、私達も、そんな風に人の心を動かす合唱をしたい、という憧れを抱きました。

先輩方が残してくれたものは、月輝祭での姿だけではありません。体育祭では、敵味方関係なくアドバイスを送り合い、全ての競技で白熱の戦いが繰り広げられました。また、団長や応援リーダーの先輩方が放つ言葉にも鼓舞されて、グラウンドが熱い空気に包まれていたことが忘れられません。総務委員会の活動では、3年生の先輩方はいつでも「月潟中学校のため」という思いで真剣に、そして前向きに話し合っていました。そして、2年生の言葉にも耳を傾けてくれました。日々の学校生活では、何気ない優しい一言やさりげない気遣いをくれました。私は、3年生の先輩から「大丈夫だよ」と声をかけてもらい、きっと大丈夫だ、と安心し、気持ちが明るくなったことが何度もありました。ひたむきな努力を惜しまず、仲間を思いやる背中に、3年生らしさを感じていました。だから今年の月潟中学校は、先輩方にしか作り出せない、明るい雰囲気のある1年でした。

何をするときも本気で、常に「月潟中学校のため」という思いを忘れず、私たち後輩を思ってくれる、そんな先輩方の姿が、この先私達の躍進会に生きていきます。先輩方が卒業するのは寂しくて、不安もあります。しかし、これからは、ここにいる在校生と新入生で、より良い月潟中学校を目指していきます。その中で、先輩方が教えてくれた「月潟中学校のために、という姿勢」、先輩方が見せてくれた「何事にも全力で挑む姿」、先輩方が残してくれた「優しさや思いやり」を受け継いでいきます。そして、総務委員会と全校生徒が近い距離で学校生活を自分ごととして考え、挑戦と改善を重ねながら、月潟中学校を、全校生徒が安心して過ごせて、さらに活気あふれる輝く学校にしていきます。

将来のことを考えると不安になることがあるかもしれませんが、しかし、先輩方が私を「大丈夫」と励ましてくださったように、私からも言わせてください。先輩方なら、きっと大丈夫です。私達が憧れる先輩でいてください。何事にも全力で熱い先輩でいてください。思いやりに溢れる優しい先輩でいてください。先輩方を、この先もずっと応援しています。私達も、先輩方の背中を追い、月潟中学校を発展させていきます。そして、いつかまた、先輩方と肩を並べて歩ける日が来るのを楽しみにしています。



最後になりますが、先輩方のご健康、ますますのご活躍を、在校生一同お祈りしています。先輩方が光ある未来に向かい、力強く歩み続けていくことを願い、送辞といたします。

在校生代表